



KSKQ 萌風香 2023年度 冬号

社会福祉法人萌 広報紙 NO.83 2023.1.17 編集人 社会福祉法人萌 定価 150円

〒630-0256 奈良県生駒市本町7-14 ブルームビル2階 ひだまり内 TEL 0743-85-4196

誰もが生き活きと
自分らしく暮らせる
心豊かな社会を
創造します。

謹賀新年 2024年 私たちの役割を果たせる一年に

社会福祉法人には、平成28年の社会福祉法などの一部改正により「地域における公益的な取組」が責務として位置付けられています。

法改正前からネットワーク作りなど地域での活動に積極的に取り組んできましたが、去年はさらに地域貢献を意識した取り組みを重点的に行い、そのまとめとして「冬の全体

会」でシンポジウムを行いました(※関連記事7面)。

「公益的な取組み」にどのような思いを持っているか。吉川郁子理事長、山本桂子福祉統括部長、出口裕生総務部長にインタビューしました。

Q:「公益的取組み」への思いを聞かせてください

吉川:作業所時代から地域に溶け込みつながりを意識しながら「障害者のための実践」にこだわってきた。社会が変化する中で、障害者のためだけでなく地域全体に働きかけることが、ひいては障害者の住みやすい『まち』になるという思いが強くなった。私たちの地域貢献が誰もが暮らしやすいまちづくりの近道になればと思います。萌があってよかったとみなさんに思ってもらえるような取り組みを続けていきます。

山本:萌の理念の「誰もが生き活きと」は、自分たちも含めて生き活きと暮らせる社会を創ること。自分たちが支援している人は「誰もが」の一部に過ぎず、地

域で生きづらさを抱えた人たちにも目を向けて、暮らしやすい社会を作っていくことが大事だと思っています。

出口:精神障害者の支援を軸に取り組んではいるが、幅広く

萌の強みを活かしていきたい。福祉が「サービス化」する中、萌が大事にしてきた「地域に働きかける」ソーシャルワークを再度意識したい。

Q:今後の「公益的な取組み」について一言

山本:長年続けてきた『萌こころの電話相談』では、日常的に活用している相談員の技術を活かすことで色々な人の役に立つことができる。自分たちにとってもやりがいのある事業です。

出口:春から法人事業として認定就労訓練事業を開始します。色々な事情で仕事に就くことを諦めていた人がチャレンジしやすい環境を作りたい。障害者の就労支援に携わり、職員の柔軟な働き方を常に模索してきた法人のノウハウを活用し地域に貢献したい。



左:山本福祉統括部長 中央:出口総務部長 右:吉川理事長

生 駒 エ リ ア

生活支援センターコスモールいこま	0743-73-7000	地域活動支援センターコスモールいこま	0743-73-0900
ひだまり	0743-85-4196	コミュニティスペースはなな	0743-73-1050
グループホーム楽都	0743-73-0141		

生駒×福祉「いこふく」始まりました



いらっしゃいませ! 市の職員さんたくさん来店

第5回いこまい街にぎわいフェスタ
3年ぶりに復活!

地域の皆さんと、楽しみながら「ココロの健康や福祉」について考えるイベント「いこまい街にぎわいフェスタ」。コロナ禍は中断していましたが、2024年1月27日(土)13時～、生駒市コミュニティセンター(生駒セイセイビル)文化ホールで、3年ぶりに開催することとなりました。

地域のお店や福祉事業所による出店、キッズスペース(ボッチャ体験)、あすか野小学校ブラスバンド部の演奏や、アンデス楽器とピアノのクラボ演奏、当事者ステージのほか、地域包括支援センター職員による「認知症相談コーナー」、「あいサポーター」の説明などもあります。皆さま、奮ってご参加ください♪

パン工房ひだまりでは、生駒市内の公共施設や市役所地下売店でもパンの出張販売をしています。

今年7月、生駒市障がい福祉課から「もっと市民の皆さまに障がい者支援施設の活動を知ってもらい、販売の機会を創りたいと考えている。市役所でも販売しませんか?」とお声がかかりました。

販売場所は市役所正面入り口を入ってすぐの市民課の前、エントランスホール。市民の皆様が一番訪れる場所で、パン、ラスク、クッキー、レインボーラムネなどを販売し、と同時に、パンフレットや看板の地図で事業所の場所も知ってもらいます。

まだ数回の販売ですが、パン工房への営業時間の問い合わせや、食パン予約の電話が増えました。ひだまり・はなな は第2・第4水曜日の10時30分から13時30分まで、売切れたら終了です。ぜひお立ち寄りください。

「オキナワへいこう」上映します!

例年に引き続き、今年も地域移行・地域定着支援研修会を実施します。内容は、精神科病院に長年入院している患者さんの「一度でいいから沖縄へ行ってみたい」という一言から始まったドキュメンタリー映画の上映です。上映後は映画出演者のNPO法人kokoima 小川貞子さん、当事者(おめでたいーず)の講演があります。

対象:市内に住むか市内に通勤・通学している人

日程:3月6日(水)13時30分から16時30分(受付は13時から)

場所:生駒市コミュニティセンター 文化ホール

定員:100人(当日先着順) 費用:無料

問合せ 地域活動支援センターコスモールいこま

(TEL 0743-73-0900) 月～金 11時～18時

手話通訳や要約筆記が必要な人は、1週間前までに連絡してください。

第5回
いこまい街にぎわいフェスタ

3年ぶりにこれまでと少し趣向を変えての開催です。地域の皆さんに楽しみながらココロの健康や福祉について知っていただくためのイベントです。
老若男女みなさんが学べて楽しめる企画が盛りだくさんです。「生駒」をもっと住みやすい街にしていきたい! 皆様お誘いあわせの上、ぜひ遊びに来てください。

日時:2024年1月27日(土)

13時(12時半開場)～16時

場所:生駒市コミュニティセンター

文化ホール(生駒セイセイビル内)

入場無料 参加申込不要

ステージ企画

ゆかりある人たちの楽しいステージ

13:10 あすか野小学校ブラスバンド部

14:00 アンデスの風

14:45 and more

(予定変更・追加出演あり)

こころの健康コーナー

身体もこころも元気に!!

・「認知症」を知ろう 相談ブース設置

・「あいサポーター」を知ろう

わいわい広場

元気なちびっこ集まれ~!!

・キッズスペース(ボッチャ体験)

にぎわい市場

ここにしかないもの発見★

・市内障害団体の自製の逸品

・地元協力商店

主 催: 社会福祉法人 萌 生駒エリア

後 援: 生駒市、生駒市社会福祉協議会、生駒市商工会議所、生駒精神障がい者後援会(依頼中を含む)

問い合わせ: コミュニティスペースはなな ☎ 0743-73-1050

社会福祉法人 萌は、誰もが生き生きと自分らしく暮らせる心豊かな社会を創ることを目指して活動しています。

郡山エリア

生活支援センターふらっと 0743-54-8112 地域活動支援センターふらっと 0743-54-3977
 ふれあい工房 0743-54-6701 彩食キッチンBon 0743-58-5572
 グループホームもえぎ館 0743-85-4112

市内中学校でバリアフリー教室



障害について知ってほしいことをお話しします！

大和郡山市まちづくり戦略課主催で、市内の全5カ所の中学校で、バリアフリーへの認識を深め、ボランティア精神を醸成することを目的に、同教室が年度内に順次開催されています。

体育館に準備された、車いす、視覚障害、聴覚障害などいくつかの体験コーナーを回りながら障害について知ろうという企画。

担当課から市自立支援協議会に打診があり、企画内容について意見交換を行いました。身体の障害だけでなく、こころのバリアフリーも盛り込んでもらいたいと委員から意見があがり、当事者の体験発表の時間が設けられることになりました。

身体・知的障害のある方と一緒に、精神分野からは、郡山の「かたろうず」という体験発表メンバーや、生駒からも応援にきてもらって、真剣な表情で聞くこどもたちの前で、話をしました。

今年度は国土交通省の補助事業での開催と聞いていますが、来年度以降もぜひ、継続して開催されることを期待しています。

「はーとふるフェスタ」開催！

お天気にも恵まれた11月25日(土)、片桐地区公民館にて、はーとふるフェスタを開催しました！親子連れを中心に、約200人の来場がありました。

例年、ハートフルこおりやま※が主催し実施していた「はーとふる市」。今年度は、郡山エリアと共催し「はーとふるフェスタ」と名称を変えました。地域住民や福祉団体から実行委員を募り、運営しました。

実行委員会では、地域住民の方々と準備の段階から話し合い、「〇〇さんと協力したらどうか」「〇〇さんが詳しいよ！声かけてみようか」と、実際に暮らしているからこそわかる地域の情報について幅広く意見が飛び交っていました。

その結果、福祉団体やボランティア団体、訪問看護、薬局、ケアマネージャー、生活協同組合など、準備から当日の運営に多くの協力を得ることができました。参加者からは「地域とつながりできてありがとう」「地域にイベントがあるのは嬉しい。来年も協力したい」と、暖かい言葉がありました。



市内で活躍中のパフォーマー！イベント中も大人気

今回できたつながりをきっかけに、今後も地域と協力し合いながら、誰もが生き活きと自分らしく暮らせる街づくりに取り組んでいきたいと思います。

※ハートフルこおりやま…詳細は巻末ページをご覧ください。

みりおーのフェス開催 ～百壽橋商店での初のイベント～

大和郡山市役所内の百壽橋商店で、12月の障害者週間に合わせて「みりおーのフェス」が開催されました。

市内の特別支援学校に通う生徒が制作した作品の展示や、百壽橋商店の運営に参加している各障害福祉事業所が日替わりで点字体験やグッズ制作などのワークショップが行われました。

彩食キッチン Bon とふれあい工房は協同でストレスチェックを実施しました。期間中は展示作品の見学や体験に来た来場者と交流し健康・福祉・ものづくりに触れられる機会となりました。



西 和 エ リ ア

生活支援センターぼと・ベル 0745-43-5541 地域活動支援センターまーぶる 0745-75-6545

らそら 0745-70-1577 グループホーム彩友館 0745-43-9333

ハートランドしぎさんとの交流会 ～ほそく・ながーく～

ハロウィンでまーぶるを開放!



じゃーん!みんな良い感じですよ!

10月31日、まーぶるでは昨年に引き続きハロウィンイベントを実施しました。来てくれた方にお菓子をプレゼントしました。

実施の背景には、「私たちの元気な姿を知ってほしい」という思いがあります。2 カ月程前から、今年もイベントをしたいと思っていることを利用者さんに伝えました。すると利用者さんから、「開始時間を早めてみては」や「ミニゲームコーナーを作るのはどうだろう」などの提案があり、取り入れてみることにしました。

当日は子どもたちやその親御さんなど50人以上の方に来場していただくことができました。そして、ミニゲームコーナーをつくったことよって、例年と違いまーぶるで過ごしてもらえ時間が増え、たくさん交流できるという発見がありました。

来場してくれた方の中には「今年もハロウィンやってるのかなと思って来ました」と話す方がおり、イベントを覚えていてくれたことにとっても感動しました。

地域の一員としてわたしたちのことを知ってもらえるように、このような機会を今後も継続していきたいです。

今回は、ハートランドしぎさん(以下、ハートランド)精神科デイケアのスタッフ4人(精神保健福祉士、作業療法士)が西和エリアの見学に来てくださいました。

それぞれの施設スタッフやメンバーから、施設の特徴や大切にしていることなどを伝えました。

また、法人内や周辺エリアでは珍しい、試泊ルーム(1人暮らし体験ができる場所)の見学も行い、「めっちゃいい!!」オンラインでの交流会で見たことがあり、「ここ、良いなと思っていたんです」「ワンルームタイプが良いですね」「自分も泊まってみたい(笑)」とコメントがありました。

当エリアでは、数年前からハートランドとの交流会を定期的に行ってきた経過があります。

「いつか当事者同士の交流会をしたい」そのような展望を病院スタッフと共有していたさなかに、新型コロナウイルスが流行して対面接触が完全にストップしてしまいました。

しかし、「コロナ禍であっても、つながりを途絶えさせてはならない」「コロナ禍ならではの活動しよう」と当エリアの方針を立て直し、地域医療連携室スタッフのご協力もあって、オンラインを使っの交流会(施設紹介や障害福祉サービス利用の流れなどの勉強会)をできる限り重ねていくことができました。

コロナ感染の危機が切迫し、緊張感が漂う状況の中にもかかわらず、継続してもらえたことが、今回の取り組みにもつながったと考えています。

次回は、萌の職員がハートランドの精神科デイケアの見学へ行く予定です。

今後も交流会を継続しながら「まずスタッフ同士がお互いを知っている関係」「わからないときに、連絡をしあえるような関係」を作っていきたいです。



子供たちの笑顔に元気をもらいます

高田エリア

生活支援センターなっつ	0745-23-7214	地域活動支援センターなっつ	0745-23-8105
マインドホーム高田	0745-23-8072	おかわり	0745-23-5625
えいぶる	0745-52-5752	あっとほーむ香芝	0745-44-8023

地域清掃冬の陣 2023

～地域への感謝・つながりの再構築～



今年はゴミ拾い後に交流会も行いました

2023年12月11日に高田エリアの事業所全体で、えいぶる周辺(大和高田市)の地域清掃を行いました。この活動は日頃からお世話になっている地域に感謝の意を込めて、2011年から毎年、大和高田市内の清掃活動をしたのが始まりです。

しかし2019年に新型コロナウイルスが流行したため、地域清掃を中止することになりました。

新型コロナウイルスがおさまった今年、「コツコツと積み上げてきたつながりを途絶えてはいけない、地域に感謝する活動を再開したい」そんな思いがみんなから湧きあがり、実に3年ぶりに、地域清掃を復活することになりました。



えいぶるがある地区の総代さんに事前に挨拶に行くと、当日の地域清掃への参加、清掃用品や車を準備するよとの積極的な協力の申し出がありました。当日はメンバー、職員が23名、自治会からも7名の方が参加し、総勢31名という大人数で地域清掃を行いました。大人数で掃除をすると、あっという間に終わり、地域清掃をした後は、豚汁の炊き出しを食べました。

えいぶるがある地区の総代さんに事前に挨拶に行くと、当日の地域清掃への参加、清掃用品や車を準備するよとの積極的な協力の申し出がありました。当日はメンバー、職員が23名、自治会からも7名の方が参加し、総勢31名という大人数で地域清掃を行いました。大人数で掃除をすると、あっという間に終わり、地域清掃をした後は、豚汁の炊き出しを食べました。

美味しくて暖かい豚汁と一緒に食べることで場が温まり、話も弾みます。そして久しぶりにみんなで集まったのでビンゴ大会を開催。盛り上がり、笑顔が絶えない時間で、事業所の垣根を越えて、交流することができました。

今回の地域清掃をきっかけに、メンバーと一緒に地域へ感謝の気持ちを還元できる活動をこれから再スタートしていきます。

ラスクとケーキに心をこめて
～250セットを納品!～

大和高田市内の大峰堂薬品工業株式会社様(以下、大峰堂様)よりご注文をいただき、焼き菓子の250セット納品しました。

えいぶるが製菓事業を始めてから、3年と少し。短期間でこんなにたくさん製造したのは、まったく初めてのことです。

大峰堂様では毎年の冬季賞与の際に、社長から社員の皆さんへ明細書とともに福祉事業所で製造されたお菓子を手渡しして、一年の労をねぎらうことが恒例となっているそうです。

実際にその様子も見学させていただくことができました。大切な場にえいぶるのラスクやパウンドケーキをお役立ていただき、とても光栄でした。納品にうかがったのは、実際に製菓に取り組んだメンバーとスタッフです。メンバーからは「なかなかできない体験をしました。お菓子を喜んでもらえてうれしかったです」という声が聞かれました。

地域の方に活用していただけて、喜んでいただける製菓事業をめざして、これからもがんばっていきます! 大峰堂様、素敵なお縁をありがとうございました!



従業員に手渡し場面に同席する利用者(右)

檀 原 エ リ ア

生活支援センターぴあぽ〜と	0744-24-2020	地域活動支援センターぴあぽ〜と	0744-24-2070
生活支援センターいろは	0744-32-7753	ひなた舎	0744-32-7745
P i t 八木	0744-21-5666	グループホーム南	0744-24-2050

広島視察研修報告

～平和学習を通して～



語り継がれる戦争の足跡

檀原エリアでは、秋深まる11月、紅葉の美しい広島に、視察研修に行きました。

1日目は、平和記念公園でのボランティアによるガイドを聞きながら、かつてそこに「暮らし」があり、自分たちと同じように生きていた日常が一瞬にして奪われてしまった戦争の悲惨な現実と足跡を学びました。

広島平和記念資料館に、海外の方々もたくさん訪れていました。厳粛な雰囲気の中での、壁一面に描かれる被爆者の記録や写真を見つめる人々の眼差しや表情は、悲劇が二度と繰り返されませんようにと平和を切に願っているように感じました。

そして、全世界同じ気持ちなのだとしひしと伝わってきます。

被爆者の体験談を読み、貴重な資料を目の当たりにすることで、戦争の悲惨さと無力感も同時に感じ、資料館を出たときには、胸が詰まり、言葉になりませんでした。

2日目は、呉市にある大和ミュージアムを訪れました。戦艦「大和」は、日本が誇る最大級の特攻の戦艦であり、すさまじい10分の1の模型を見て圧倒されました。

しかし、その裏には数多くの若い命を含む訳3000人以上の方が犠牲になり、幾多の犠牲を伴ったこの巨大戦艦を目の前にすると、戦争がもたらす無益さを感じさせられました。

この研修を通じて、戦争の問題は、私たちの福祉の実践に、深くつながっていることを皆で再確認出来ました。そして、この経験を胸に、より平和で、より理解し合える世界のためには、どうしていけばいいのか一人ひとり考え続けていくことが大切だと感じました。



呉の戦争の歴史を訪ねて

「こども110番の家」に登録！

ぴあぽ〜とでは、9月から地域との連携や協力の一環として、近隣の檀原市立畝傍南小学校に、「こども110番の家」の登録をしました。

「こども110番の家」とは、こどもたちがトラブルに巻き込まれそうになった時、助けを求めて駆けこんできた際に、安全を確保する場所です。

檀原神宮参道沿いに建物があるので、ステッカーを、ぴあぽ〜との正面の大きな窓ガラスに張り、目立つようにしています。

ミーティングで、利用者にも伝え、みんなで協力していこう



地域とともに見守っていきます！

と確認し、こどもが駆け込んだ時の手順を誰でもわかるようサロンに掲示しています。これからも、誰もが安心して暮らせる一助になれるよう、地域とのつながりを大切にしていきたいと思います。

地域における公益的取り組みをみんなで考える 職員全体会(冬)を開催



あらためて法人理念の共有化を

奈良ロイヤルホテルで12月16日、社会福祉法人萌冬の全体会を開催しました。

福祉統括部長・総務部長による法人情勢報告や、新規採用職員の紹介、永年勤続表彰などの催しが行われました。

また、社会福祉法人やすらぎ会の理事長で当法人の理事でもある植田誠氏をコメンテーターにお招きし、法人の公益的な取り組みをテーマにしたシンポジウムも行いました。

シンポジウムでは、本部と5つのエリアの公益的な取り組みが報告されました。萌は伝統的に実践を通して地域貢献を行うという意識の強い法人です。

各発表者からは「地域に巻き込まれる」を意識しながら商店街や自治会との協働、地域の福祉関係者のもとより、教育機関や民間企業などとの連帯を通じた公益的な取り組みが発表されました。

コメンテーターの植田理事からは「萌の皆さんは同じ方向を向いていることがすごくよく分かった。そこは、ぜひ自信をもってほしい。ただし、道は一つでなくていい。本部と5つのエリアの実践報告があったが、方向が同じならいろんな方法があってもいい。これからも創設の理念を忘れず、足元を確認しながら、法人の発展のために励んでいただきたい」という総括コメントをいただきました。

地域における福祉実践は、単独で何かできるというものではなく、たくさんの人たちと協力し合いながら行うものです。

そして、法人の特色でもある「利用者と共に」という視点も欠かせません。

今回の全体会では、公益性を軸にして私たちの歩みを再確認する機会になりました。



わたしの話を聴いて欲しい～時代によって多様化する相談

県内すべての人を対象にした精神保健福祉電話相談事業「萌こころの相談室」を12月4日から8日まで実施しました。この相談室は職員が日々の業務で培ってきた相談技術や情報を活用し、地域貢献をするために行っている事業です。2023年度は54件の相談を受けました。

精神疾患がある当事者や家族からの相談があり、「発達障害と診断され今後どのように生活をしていけばよいか」、「子供が引き籠っているのでどうにかしたい」、「SNSでのやりとりで子供が困っている」など時代を反映した相談内容が目立ちました。

「こんな相談電話は年1回しかないのですか、もっとあればいいのに」との声もあり、電話相談の必要性の高さもうかがえました。

相談内容内訳(1件の電話で複数項目あり)

保健医療相談	32
福祉制度・サービスの利用	12
利用施設の相談	3
住宅・住居	1
家庭・家族	7
近隣	2
友人	4
障害	2
職場・就労	8
経済・金銭	5
介護	1
引きこもり・不登校	4
虐待・DV	2
余暇	2
話がかたい	19
その他	6

さくらんぼ便り

ホームヘルプステーションさくらんぼ
0743-54-0800

ライク通信

なら西和障害者就業・生活支援センターライク
0743-85-7702

さくらんぼフォローアップ研修

2023 年 11 月 29 日(水)いかるがホールにて「精神障害者介護研修」を開催し、「精神科訪問看護の役割」と題して訪問看護ステーションくるみの新谷所長に講義をして頂きました。さくらんぼ利用者の約半数が訪問看護を併用しておられ、身近な存在ながらその役割は服薬管理など医療のサポートというのがこれまでの認識でした。

今回の研修では、看護計画をもとに自己決定を尊重し、成功体験を重ねる働きかけをする、会話から不調のサインをキャッチして対処方法を一緒に考えるなど、精神科訪問看護の専門性について学ぶことが出来ました。地域での生活を支えるチームの一員として、今後も本人の了解を得て看護と介護の情報交換を丁寧に行い、連携を深めていきます。

事業主支援についての「気づき」

令和 6 年度から障害者雇用率が段階的に引き上がることもあり、今年度はハローワークと共に、障害のある方の雇い入れを推進するための企業訪問をさせて頂く機会が複数ありました。

結果として雇用に結びついていない会社であったとしても、よく話を聴いていると「実は前向きに考えていた」と分かることがあります。

事業主支援においてはまずは相手の話をとにかく伺い、共通の目標に向けて一歩進めるためのパートナーシップを形成することが大事だと改めて気づかされた経験でした。

ライクでは今後も障害者雇用における事業主の身近な相談先として、地域に根差した活動を継続してまいります

★萌風香の購読★

萌風香は年 4 回発行です。皆様のお手元に届いた後、萌のサービス利用者以外の方で「引越して住所が変わった(住所変更)」「次からは送ってもらわなくても結構です(購読中止)」という場合、お手数ですが必ず萌風香編集部ひだまり(0743-85-4196)までご一報くださいますようお願いいたします。

▽萌 後援会からのご案内

萌後援会は「社会福祉法人萌」の活動を支援していただける皆様を募集しております。

主な目的は法人事業の支援や寄付を行っています。

会費の納入及び寄付の受付口座は郵便振替 社会福祉法人萌後援会
00920-4-221824

後援会事務局(萌総務部内)

0743-54-0821(出口)

▽ハートフルおこりやま
精神障害者の社会参加をすすめる会

「障がいのあるなしに関わらず、誰もが住みやすい街づくり」をすすめる当会では、会の趣旨に賛同頂き、活動に協力して下さる会員さん・ボランティアさんを大募集しています!!年会費は1口500円(2口からお願いします)です。
連絡先:会事務局 ふらっと内
0743-54-3977(帯田)

▽生駒精神障がい者後援会
ひだまりクローバー

第 38 回こころの市民講座
日時:3 月 2 日(土)
開場:14 時 開演 14 時半~
場所:生駒市図書館 3 階 大会議室
内容:とにかく眠る
講師:中川 晶 氏
(なかがわ中之島クリニック院長 精神科医)
参加費:無料 定員:60 名(当日先着順)
連絡先:ひだまりクローバー事務局
0743-73-1050(コミュニティスペースはなな)

▽地域家族会の情報

詳しくは、下記の各団体・お問い合わせ先にご確認ください。

詳細は まほろば会(NPO 奈良県精神障害者家族会連合会)

TEL:090-9213-2731 FAX:0742-51-5506 <https://nara-mahorobakai.org/>

名称	月例会	時間	場所	問い合わせ先	電話番号
さくら会 (大和郡山市周辺)	第 3 日曜日	13:30~	三の丸会館	会長関野	0743-54-6375
ひだまり会 (生駒市周辺)	第 3 土曜日	13:30~	市民活動推進センター ららポート	会長上村京子	0743-78-0885
西和家族会 (西和 7 町周辺)	第 4 土曜日	13:30~	王寺町やわらぎ会館	西村	0745-74-6203
すみれ会 (大和高田市周辺)	第 3 日曜日	13:30~	大和高田市中央公民館	三島	090-9889-7984
のぞみ会 (橿原市周辺)	第 2 日曜日	13:30~	県心身障害者 福祉センター	ぴあぽ〜と	0744-24-2020